

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛知県豊橋市立大崎小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-8073

E-mail oosaki-e@toyohashi.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 104 名 女子 86 名 合計 190 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、ESD を持続可能な教育活動と捉え、ESD の実践を通して「かかわる力」の育成を目標として実践を重ねてきた。

具体的には、①地域の方たちとともにお米作りをしよう②地域の方の協力のもと体によい食べ物をおいしくいただく、の実践を全校体制で行った。

① 地域の方たちとともにお米作りをしよう

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で被害に遭われた気仙沼前浜地区の方たちとの交流を平成 24 年から始め、その活動の一つとして「もち米」を毎年送っている。そのもち米作りは、地域の方から借りた田んぼで、「苗育て」「田植え」「草取り」「鳥よけのテグス張り」「かかし作り」等を地域の方々とともにやっている。合わせて収穫したもち米を使用した「もちつき大会」も地域の方をお呼びして盛大に行っている。おもちを食べることはもちろん、気仙沼の方への「応援メッセージ」を発表する場面もあった。今後も気仙沼の方たちとは交流を続け、ESD の理念である「持続可能な活動」の実践を積み重ねていきたい。

② 体によい食べ物をおいしくいただく

大崎小学校では「みのり農園」という地域の方から借りている畑があり、季節に合わせて「キャベツ」「だいこん」「じゃがいも」等が農業指導師のK氏の多大なるご指導・ご支援によって行われている。苗を植えることから始まり、肥料散布や草取り、収穫に至るまで大変お世話になることが多く、感謝する会でも子どもたちから多くの手紙が届き、日ごろのかかわりが大変濃いものであるということよくわかった。来年度からはK氏から引き継ぐ方にお世話になることになるが、子どもたちは変わらず今のようなかかわり方ができるようきちんと指導を続けていきたい。



①の写真



②の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

とくになし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

低学年では「生活科」、3年生以上では「総合的な学習の時間」にユネスコスクールの活動を位置づけ、年間を通して活動を保証するようにしている。「お米づくり」や「野菜づくり」は天候に左右されることが多く、その都度柔軟な計画変更や指導変更が必要とされる。その対応については教職員の共通理解のもと円滑に行えるよう教職員同士の情報交換を密にしている。
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

全教職員20名以下という小規模校の利点を生かし、職員室等での情報交換を密にして、子どもの活動が素早くできる体制をつくことを心がけている。そのために、活動の目的や主旨を教職員全員が理解できるように、文章化し、わかりやすくなるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価として、教職員・保護者・地域の方の評価を総合的に打ち出した。評価の文言としては、「ESDの視点による活動を取り入れ、特色ある学校づくりが推進されているか」であり、評価としては、「概ね実践された」との評価を受けた。今後は継続的な実践と新しい視点の融合を考えた実践を考えていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

主な発信方法として、学校だより・学年だより・学級だよりを織り交ぜ、その都度保護者・地域に子どもたちの様子を中心に具体的な姿が伝わるように心がけた。その結果、授業参観や運動会・学芸会等の学校行事等で「子どもたちの活動の様子が伝わってきます」等声かけをしていただき、以降の実践への励ましとすることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特に現在のところは連携や交流等行っていないので、計画を立案していく段階で交流や連携する場面を検討していきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

上記⑥と同じで前向きに検討していきたい

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

残念ながら特に特筆すべき内容はないので、現在継続している地域との関わりをさらに発展させる中で特筆すべき内容を見出し、ポジティブな変化へとつなげていきたい。

- (3) 平成30年度の活動計画(200～400字程度)

本年度と同様に地域との関わりを重視した「米作り」や「野菜作り」を継続し、その関わりが少しでも広がるような工夫を計画の中に加えていきたい。その広がった関わりをネットワーク的に広げていく機会をとらえ、積極的に発信するようしていきたい。